

米国の景気動向と自動車市場

——2013年の新車販売は 6 年ぶり高水準の見込み——

主任研究員 木村俊文

米国の自動車市場がこのところ回復傾向を強めている。以下では、米国の景気や自動車(新車)販売の動向を概観した後、新車販売が好調となっている要因を整理するとともに、今後の見通しについて考えてみたい。

1 緩やかな回復基調

米国経済は、リーマン・ショック(世界的な金融危機)後の深刻な景気後退が2009年6月に終了して以降、緩やかな回復基調をたどっている。

13年4～6月期の実質GDP成長率(速報値)は、外需のマイナス寄与が拡大したものの、政府支出の減少幅が縮小したほか、設備投資が増加に転じたことや住宅投資の伸びが加速したことなどから、前期比年率1.7%と前期(1.1%)を上回った。4～6月期の成長加速の主因は民需の拡大であり、なかでもGDPの7割を占める個人消費は、給与税増税や強制歳出削減の影響が懸念されていたにもかかわらず、雇用環境の改善や株高などを背景に回復が続いた。とりわけ、自動車を含む耐久財消費が好調さを維持し、持続的に消費を押し上げていることが特徴の一つである。

2 堅調な新車販売とその背景

12年の米国の新車販売台数は、前年比12.7%の1,446万台と3年連続で前年を上回り、金融危機後の最高水準に達した。新車販売は13年に入ってから堅調に推移しており、13年

7月には基調を示す12か月移動平均が年率換算で1,520万台と08年6月以来約5年ぶりの高水準となった(第1図)。

米国の新車販売市場は、かつては年間1,600万台強の市場規模を誇っていたが、08年からの金融危機時には需要の激減で落ち込みに歯止めがかからず、一時は917万台(09年2月)と半減近くの水準にまで市場規模が縮小した。最近ではかつての水準の9割まで回復したが、落ち込みが大きかっただけに回復には相当な時間を要している。

この間、米国内の自動車の平均使用年数は、1990年代後半の約9年から、金融危機後は雇用・所得環境の悪化に伴う消費低迷の影響を受けて買い替えが進まず、近年では約11年と過去最長に延びた。

こうした抑制されてきた需要が存在していたところに、12年後半以降は雇用環境が改善傾向を示し、個人消費に持ち直しの動きが見

第1図 米国の新車販売台数の推移



資料 米オートデータ社、NBER公表資料から作成
(注) 季節調整済み年率換算(SAAR)、■部分は景気後退期。

られたほか、量的緩和策第3弾(QE3)の導入を受けて自動車ローン金利が低下し、同時に貸出態度も緩和したことにより自動車購入時の借入れがしやすくなったこと、さらにはガソリン価格が1ガロン＝3ドル台後半(1リットル当たり1ドル弱)の高値で推移するなか、ハイブリッド車に代表される低燃費車などの新型モデルが続々と登場したことなどから、新車販売が持ち直し傾向を強めたと考えられる。

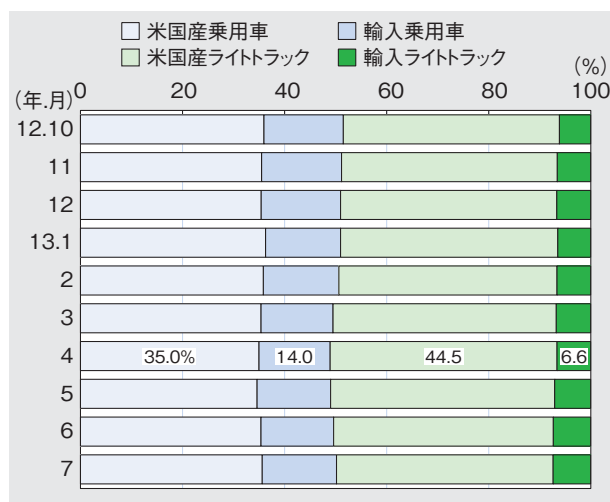
3 今後の見通し

米国の景気は、先行きも緩やかな回復傾向が続くと見込まれる。13年末にかけては海外経済が徐々に復調すると予想されることに加え、これまでの金融緩和策により内需の自律回復が一段と進むと考えられることから、成長率が加速する可能性が高い。

最近の家計部門の動きを見ると、13年1～3月期の債務残高は前年同期比△0.3%とマイナスながらもほぼゼロに接近しており、4年以上続いたバランスシート調整に目途が付きつつあるほか、4～6月期の貯蓄率も4.5%と低下傾向が続いており、底堅く推移する個人消費と整合的な動きを示している。

また、雇用や景気の先行き期待を背景に消費者マインドが5年半ぶりの高水準に改善していることから、個人消費は徐々に増加傾向を強めると考えられる。このところは、住宅や株式など資産価格が上昇したことを受けて、富裕層の消費意欲がより顕著に改善していることが特徴であり、これを背景に高価格車種であるスポーツ用多目的車(SUV)を含むライ

第2図 米国の新車販売における車種別シェア



資料 米オートデータ社公表資料から作成

(注) ライトトラックとは、米国の自動車市場における車種区分であり、スポーツ用多目的車(SUV)やミニバン、ピックアップトラックなどを含み、貨物積載量が4,000ポンド(約1,815kg)未満のトラックまたはトラックベースの車両を指す。

トトラックのシェアが再び過半を超える程度まで持ち直している(第2図)。所得税やキャピタルゲイン課税など増税の影響はあるものの、富裕層ほど債務が少なく、資産価格上昇の恩恵を受けやすいと考えられるため、新車購入をはじめ消費拡大の牽引役となることが期待される。

一方、米国の長期金利の上昇を受けてローン金利全体に上昇圧力がかかっているため、低所得層など自動車ローン利用者には、先行き購買力や消費意欲の低下が懸念される。しかし、先送りされていた買い替え需要が今後も続くと想定されることから、自動車市場全体としては好調さを維持すると考えられる。

こうしたことから、米国の新車販売台数は、引き続き年率換算1,500万台強の水準で推移し、13年は07年(1,616万台)以来6年ぶりの高水準を達成すると予想される。

(きむら としゆみ)